

## 行事開催報告

### 第10回成果発表会を開催

防災科研は、3月6日（金）に東京国際フォーラムにおいて、「第10回成果発表会」を開催し、平日にもかかわらず300名近い参加者を集めました。

岡田理事長の開会挨拶、文部科学省田中研究開発局長の来賓挨拶に引き続き第1部では、「最近の災害の様相とそれへの対応」というテーマのもと、2月の大雪、夏の豪雨災害、9月の御嶽山噴火などを踏まえ、「防災科学技術研究所で観測された2014年火山活動」、「雪氷災害研究50年 昨今の大雪も踏まえた総合的な雪氷災害軽減システムの構築」、「土砂災害研究と減災対策」の3件の講演を行いました。



活発な質疑応答



岡田理事長による開会の挨拶

休憩を挟んでの五百旗頭公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長・公立学校法人熊本県立大学理事長による「大災害の時代」と題した特別講演の後、第2部では、「災害・防災研究の新たな展開」というテーマのもと、「実戦研究へ 体育館の天井落下とそれへの対応」、「地震発生メカニズムに迫る」、「災害に強いレジリエントな社会を目指して」の3件の講演を行いました。

また、合計49件のポスター発表も実施し、盛況のうちに会は終了しました。

## 行事開催報告

### 学校施設における大空間建築物の実験研究 成果発表会

このたび、「大規模空間吊り天井の脱落被害メカニズム解明のためのE-ディフェンス加振実験報告書」をまとめるとともに、その成果を広く一般に報告する成果発表会を2015年2月24日に開催いたしました。100名を超える方々に申込みいただき、最終的にはプレス8社を含む124名もの方の参加がありました。

発表会は3部構成で行われました。まず、第1部では、プロジェクト立ち上げの経緯の説明、立ち上げのきっかけとなった東日本大震災における体育館等施設の被害を含む、過去の地震被害の状況、今回の実験の概要説明を行うとともに、まずは体育館建物そのものの応答分析について報告しました。

第2部では、今回の実験で最も重要なポイントとなる脱落被害メカニズムについて、第3部では、大きく話が変わり、施設管理者などに向

けた内容を整理し、報告しました。天井の新しい技術基準が施行されて、まだ1年しか経っていないこともあり、非常に注目を浴びる発表会でした。最後に、岡田理事長より、発表会を締めくくる閉会の挨拶が行われました。



当日の参加者の様子

## 行事開催報告

### 第5回防災コンテスト開催報告

平成26年4月から12月までの間、「第5回防災コンテスト」が開催されました。全国から113グループの応募(e防災マップ：77グループ、防災ラジオドラマ：36グループ)があり、自主防災組織や自治会をはじめ、生徒会やPTAなどの学校関係のグループ、NPOや福祉団体、さらには外国籍住民コミュニティなど、多様なコミュニティからの参加がみられました。

参加グループの活動は、観光客を対象とした防災、子供の安全な避難、要援護者の支援、被災経験の記録や伝承など、具体的な目的を設定し、地域防災活動に取り組んでいることが作品や活動記録に表れています。

厳正なる審査の結果、それぞれ11グループの受賞が決定し、平成27年3月14日に、第3回国連防災世界会議(仙台)の関連事業として表彰式を開催しました。表彰式の後には、地域防災のあり方や実践を踏まえた活動のノウハウなどについて、受賞グループ、中間支援団体、一般参加者による意見交換・交流の場として、住民向け公開シンポジウム「地域協働で実践する防災活動を学び、つなぐ」を開催し、約100名の方にご参加いただきました。



第5回防災コンテスト表彰式

本年度も「第6回防災コンテスト」を開催します。6月1日から参加申し込みを開始しておりますので、奮ってのご参加をお待ちしております。

■第6回防災コンテスト公式サイト

<http://bosai-contest.jp>

■過去の作品はこちらからご覧いただけます。

「e防災マップ」

[http://bosai-contest.jp/past\\_emap.html](http://bosai-contest.jp/past_emap.html)

「防災ラジオドラマ」

[http://bosai-contest.jp/past\\_drama.html](http://bosai-contest.jp/past_drama.html)



交流の様子



発表の様子

## 行事開催報告

### 第3回国連防災世界会議

平成26年3月14日から18日まで宮城県仙台市内各会場にて第3回国連防災世界会議が開催されました。10年に1度開催されるこの会議は、「横浜」「神戸」に続いて3回目となり、今回は「仙台」で開催されました。本体会議とパブリック・フォーラム(一般公開)があり、防災科研はパブリック・フォーラムに参加しました。

宮城県での開催ということもあり、東日本大震災をきっかけに始まった「日本海溝海底地震津波観測網(S-net)整備事業」と、同じく東日本大震災で問題となった吊り天井の脱落について、展示ポスターと実験映像を用い、解説をしました。期間中、同会場内コミュニケーションスペースでは、兵庫耐震工学研究センター佐々木智大研究員の講演もあり、関係者だけでなく、一般の方にもお伝えできる良い機会となりました。

今回のパブリック・フォーラムへは、ポス



佐々木智大研究員による講演  
「大規模空間吊り天井の脱落被害メカニズム」



世界の防災展 展示ブース

ター展示、シンポジウム等への登壇を含め、セミナーへの参加、講演など、防災科研から多くの職員が参加しました。

## 行事開催報告

### 日本海溝海底地震津波観測網(S-net)海底ケーブル陸揚げ作業見学会を宮城県亶理町の荒浜で開催

防災科研では日本海溝海底地震津波観測網(S-net)の整備事業を進めています。2015年4月16日(木)に宮城県亶理郡亶理町で行なわれた茨城・福島沖システムの陸揚げ作業に併せて見学会を開催しました。

地元の方やプレスの方など多くの方々に工事の様子をご覧いただき、亶理町の三戸部貞雄副町長には工事の安全祈願にもご参加いただきました。2015年4月19日(日)には宮城・岩手沖システムのケーブルも亶理町に陸揚げしました。



亶理町荒浜で実施した海底ケーブル陸揚げ作業の様子



作業の様子を見守る地元の方やプレスの方々

陸揚げされたケーブルは、亶理町水産センター「きずなぼーと“わたり”」の3階の亶理陸上局に接続されます。今後工事が進むと、海底に設置された各機器の観測データは、各地の陸上局を介して防災科研や気象庁等に送信され、地震と津波の監視、緊急地震速報や津波即時予測の高度な技術開発などに活用されます。

海洋部の敷設工事や陸揚げの様子は、S-net整備事業のHP (<http://www.bosai.go.jp/inline/>) をご覧ください。



工事の安全祈願にご参加いただいた三戸部貞雄副町長(右)と岡田理事長

## 行事開催報告

### 防災産業展 in 仙台に出展

国連防災世界会議にあわせて、3月15～17日に開催された防災産業展にて、E-ディフェンスを活用した実験研究を紹介する展示を行いました。この防災産業展では、企業や大学による防災・減災対策技術の展示や、公的機関・NPO法人等の災害時対応の紹介など、自然災害対策に関する出展が多数ありました。

2日目には、Dr.ナダレンジャー・ナダレンコが広い会場を巡り、来場者へ『エッキー』や『ゆらゆら』を紹介しながら防災科研ブースへの誘導をするなど積極的な活動を行いました。

防災科研のブースでは、室内の耐震対策の有効性や長周期地震時の様子、免震構造の特徴な



防災科研のブース様子

どを、E-ディフェンス実験の映像やポスターを用いて説明し、多くの訪れた方々に興味を持っていただきました。

## 科学技術週間 (つくば本所) 一般公開

1年に1度の一般公開として「ぼうさいミュージアム～災害から何を学んだか?～」を4月19日(日)に開催しました。防災意識の向上は、「周りの人たちとのコミュニケーション」であることを考えるきっかけになればと、工夫を凝らしたイベントを実施しました。

「科学実験屋台村」では、雪氷防災研究センター及び兵庫耐震工学研究センターを含む、各研究部門が、来場者と実験・工作を行い、様々なことを学んでいただきました。

今年は、阪神・淡路大震災から20年ということもあり、自然災害情報室では、企画展示を行ったところ、来場者の7割以上の方に足を運んでいただきました。

また、大型降雨実験施設では1時間降雨量300mmの豪雨体験、大型耐震実験施設では研究員による実験映像解説。Dr.ナダレンジャーは秘密基地を案内しながら、実験を行い、今年の一一般公開も大盛況に行われました。



豪雨体験



Dr.ナダレンジャーの秘密基地公開



科学実験屋台村

## 科学技術週間 (雪氷防災研究センター) 一般公開

雪氷防災研究センター(長岡)では、科学技術週間に合わせて、4月17日(金)、18日(土)の2日間にわたり一般公開を開催しました。この一般公開では、身近な雪や氷に関する現象や雪氷災害についての関心や知識を高めてもらうことを目的として、研究者による雪氷現象に関する実験、パネル展示による雪氷災害や防災研究の紹介、及び観測施設の見学を行いました。

合計365名もの来場者を迎え、大盛況でした。アンケートで頂いたご意見・ご感想では、「雪氷防災研究センターで公開している積雪深データを毎年楽しみにしている」、「夏休みにも開催して欲しい」など好意的なご意見をたくさん頂きました。

2014-15年冬季は、徳島県、岐阜県の着冠雪災害、宮城、山形、新潟県での雪崩災害や建物

被害、北海道道東地方の大雪と長期吹雪災害など各地で人的・物的被害が出ています。今後も、一般公開やイベントを通して、雪の美しさや雪氷現象の面白さを伝えるとともに、雪氷災害の危険性を認知していただき、防災に生かすことができるように努めてまいります。



模擬雪崩実験

## 受賞報告

### 雪氷防災研究センターが雪崩災害防止功労者として表彰されました

雪氷防災研究センターは、雪崩防災週間実行委員会(会長：国土交通省砂防部長)より「平成26年度雪崩災害防止功労者表彰」を受賞しました。これは、平成26年2月の大雪に際して、専門的知見から山梨県や甲府市など自治体に対して、雪崩の危険性の判断や応急対策等について技術的助言を行い、さらにマスコミを通じて地元住民に周知を図るなどの活動により地域の雪崩災害の防止に貢献した功績について表彰されたもので、平成27年1月16日に石川県金沢市で開催された雪崩災害防止功労者表彰式において雪崩防災週間実行委員長である国土交通省砂防部長から授与されました。

この表彰は雪崩による災害防止に関して顕著な功労があり、他の模範として推奨に値すると認められる個人又は団体を表彰し、雪崩災害防止に寄与することを目的とし、平成12年度より続いているもので、今回、雪氷防災研究センターがこのような表彰を受けることは、まことに身に余る光栄です。

表彰となった我々の活動は、山梨県や甲府市の方の熱意があったからこそできたもので、その後も、お互い顔の見えるつながりを続けております。

また、大雪により大きな被害のあったビニールハウスへの雪の影響に関して群馬県と共同研究を進めるなど、大雪で苦勞された関東甲信の方々にもいろいろとお世話になっております。

今後も、この表彰に恥じないように、雪氷災害防止に役立つ研究を推し進め、防災に生かすことができるように努めてまいります。



## 受賞報告

### 広島市社会福祉協議会より感謝状をいただきました

2014年8月の広島市土砂災害で社会防災システム研究領域 災害リスク研究ユニットが調査・支援活動を行い、広島市社会福祉協議会より感謝状をいただきました。

発災後、広島市安佐北区および安佐南区災害ボランティアセンターから情報集約・利活用の支援要請を受け、防災科研が開発したeコミュニティ・プラットフォームを活用した支援活動と、その利活用調査を実施しました。

今回の支援活動では、土砂災害発生後に撮影された航空写真(国土地理院)に土砂災害エリアの判読図や災害ボランティアセンターの拠点などの現地情報を重ね合わせたマップの大判印刷での提供や、現地ボランティアの活動状況をデータベース化して被災者ニーズ対応の状況を把握し、センター運営方針判断に活用できる情報生成を行いました。

防災科研は、東日本大震災の発生直後から、宮城県社会福祉協議会等に協力し、被災地の災害ボランティアセンターの活動支援とそのための研究開発を行っており、今回の災害においてもその経験と成果が活用されました。



安佐北区 被災後航空写真と災害VC位置図(航空写真：国土地理院 提供)

また、今回の活動状況をまとめた一覧表や航空写真と活動位置・実施日を重ね合わせたマップ資料は災害ボランティアセンターから行政への報告資料としても利用されたとのことです。

## 2014年度日本地震学会論文賞・若手学術奨励賞をダブル受賞

地震・火山防災研究ユニットの齊藤竜彦主任研究員が、論文「Dynamic tsunami generation due to sea-bottom deformation: Analytical representation based on linear potential theory」で2014年度日本地震学会論文賞を受賞しました。

この賞は、日本地震学会の学術誌「地震」または「Earth, Planets and Space」で発表されたすぐれた論文の中から、地震学に重要な貢献をしたと認められる者に贈られる賞です。



本論文は、津波の発生から伝搬における様々な解を導出することに成功し、特に津波の発生過程の基礎的研究を格段に進歩させたことから、地震学会論文賞にふさわしいと高く評価され今回の受賞となりました。



齊藤竜彦主任研究員の賞状と論文

また、同ユニットの北佐枝子特別研究員が、スラブ内および衝突帯の地震発生機構の研究で2014年度日本地震学会若手学術奨励賞を受賞しました。

この賞は、すぐれた研究により地震学の分野で

特に顕著な業績をあげた35歳以下の会員に贈られる賞です。

本研究は、スラブ内地震及び衝突帯の地震に関する種々のデータ解析を行い、その発生機構の解明に取り組んだもので、優れた業績と将来性が高く評価されました。

北佐枝子特別研究員は「受賞の対象となった研究業績のうち2本の主著論文は、防災科研での研究活動により発表されたものです。防災科研が長年蓄積してきた大量の地震データを使用できたこと、育児中の研究者が働く環境が整っていること、ユニット長・室長・先輩方・同僚およびスタッフの皆さんの温かい目があることで、これらの研究成果をあげることが出来ました。受賞に際し、お世話になった方々に改めて感謝すると共に、西南日本や中部日本など他地域も含めた研究に一層取り組んでまいります。」と語っています。

授賞式は、2015年5月の日本地球惑星科学連合2015年大会時に開催する総会で行われました。



北佐枝子特別研究員と賞状・メダル